

清和文楽シチリア訪問団「パレルモ日本文化の夕べ」事業報告書

渡航期間：平成 19 年 12 月 12 日（水）～19 日（水）

公演会場：イタリア国 シチリア州 パレルモ市 マリオネット国際博物館

参加者：清和文楽人形芝居保存会 11 名、太夫 2 名

（財）清和文楽の里協会 福田理事長、清和文楽館 渡辺館長
吉本美術 吉本氏、添乗員 外山氏、一般参加 1 名、役場清和支
所産業振興課 村上主事、熊本日新聞社山都支局 伊藤支局長
以上 20 名

12 月 12 日（水）出発

午前 5 時 30 分に清和文楽館集合。町有のマイクロバスにて阿蘇熊本空港へ移動。8 時発 JL1802 便にて羽田空港へ。到着後、貸切バスにて成田空港へ移動し昼食。

14 時 55 分発 AZ785 便にてローマ空港へ出発。現地時間 12 日 19 時 30 分に到着し、21 時 30 分発 AZ1795 便にてパレルモ空港へ出発、23 時 20 分到着。

パレルモ空港では今回のイタリア公演の仲介役である山崎尚枝氏が出迎え。招待元であるマリオネット博物館が用意した貸切バスにて、パレルモ市内の 3ヶ所の宿泊先へ移動。最後のホテルに到着したのは 13 日深夜 2 時となった。

○1 日目

山都町を出発し、現地へ到着するまでに丸 1 日と 3 時間という長時間を要した。特にローマ空港ではパレルモ行きの飛行機に搭乗後、約 40 分の待ち時間があり、到着予定が 1 時間遅れることとなったため、ホテル着が深夜となってしまい、高齢の保存会員の体調が心配された。

また、出発当日に宿泊先が変更（3ヶ所分散）となったため、相互連絡が取りにくくなったり、追加された宿泊先は最低限の設備で、しかも案内された部屋は床が水浸しで水道から赤水が出るような状態であるなど、博物館側の受け入れ態勢とイタリアのルーズさに以後の滞在に不安を覚えた。



ローマ空港でパレルモ行きの飛行機を待つ清和文楽訪問団一行

12月13日(木)

10時にマリオネット博物館に集合し、舞台と公演準備。日本から輸送していた大道具関係の荷物はすべて問題なく届いていたが、舞台と照明設置がまだ完全に出来ていない上に、事前の打合せとの相違があった。

11時から日本文化セミナー参加のため、保存会5名を含む8名はパレルモ大学へ移動。セミナーでは大学教授の講義の後、清和文楽の紹介となり、文楽の歴史、文楽人形の操作や太夫三味線の説明が行われた。参加した大学生約90名は舞台関係のコースを専攻しており、メモや写真をとるなど熱心に聞き入っていた。終了後、博物館へ移動し昼食をとり、引き続き舞台準備を行う。

17時から博物館にて日本文化紹介のイベント開催(約70名)。イタリア日本文化協会役員の説明の後、日本から持参した折り紙、竹とんぼ、竹細工等を使い参加者との交流を図る。交流会中には保存会による安来節、日本舞踊、三味線の披露も行われ、参加者は滅多に目にすることのできない日本文化を楽しんでいた。20時終了。終了後夕食をとり解散。各ホテルへ。

○2日目

舞台準備では事前に依頼していた舞台設備との相違も見られ、急ピッチで作業が進められた。行われる予定だったリハーサルも舞台が完成しないため、翌日の公演直前に変更した。

日中のセミナーや舞台準備の際には、前日の疲れに加え時差ボケも始まってきたため、保存会員の表情に疲れが見え始めていた。しかし日本文化紹介イベントでは自分達が外国人として、多くのイタリア人の方達との貴重な交流を楽しんでおられ、一時ではありますが疲れを忘れられたようだった。



マリオネット博物館



マリオネット展示物



会場設営



パレルモ大学セミナー



日本文化紹介(安来節)



日本文化紹介(折り紙)

12月14日(金)

9時に博物館に集合しリハーサル。10時から中高生向けのミニ公演開演(約130名)。中学校教師の説明の後、日本の小中学生の紹介ビデオを上映し「日高川入相花王」の上演。終了後に人形とのふれあい、記念撮影を行った。公演に対する中高生の反応は様々だったが、公演中に清姫のかしらが鬼に変化すると、その仕組みに興味を持ったようで、食い入るように見入っていた。終了後昼食。

15時30分よりパレルモ県知事の歓迎レセプションに参加。舞台スタッフは舞台や暗い照明の手直しのため18名での訪問となった。県庁舎内の案内後、知事室に通される。知事室では中村雄二在イタリア日本国大使が県知事との会談中であり、一段落した後に清和文楽の紹介と理事長の挨拶。日本からのお土産を手渡すと、知事より記念のメダルが贈呈された。その後、簡単なパーティーが行われ知事、大使との記念撮影など保存会には貴重な体験となった。

終了後、18時30分からのパレルモ市長による歓迎レセプション会場へ移動。当初は全員で訪問の予定であったが、知事の歓迎レセプションの際に男性保存会員1名が体調不良を訴えホテルで休養することとなるなど、全員にかなりの疲労の色が見えたため、急遽保存会4名を含む7名での訪問に変更し、訪問者以外は博物館にて休息をとることとなった。会場到着後、中村大使の到着を待つため待合室にて1時間ほど待機。中村大使到着後、会場(歴史的な建物とのこと)の案内を受け、簡単な交流会が行われた。当然のことながら、ほとんどの時間が中村大使との会談のようで、残念ながら清和文楽との交流はわずかな時間となってしまった。終了後、21時からの公演のため博物館へ移動する。

到着後、テイクアウトの簡単な夕食を取り公演準備。

20時40分開場。チケットを購入した観客が続々と入場。中村大使も鑑賞に訪れられ、40分ほどで約130席の客席は満席となった。開演前に清和文楽の紹介と上演演目である「日高川入相花王」「心霊矢口渡」のストーリー説明が行われ、予定時刻を30分過ぎた21時30分に開演。上演した2演目は恋に落ちた女性が主人公でイタリアのオペラにも似た内容のものがあることに加え、公演中は舞台上部スクリーンにイタリア語の字幕を用意し、よりストーリーが分かり易く工夫したことで、イタリアの方でも内容をある程度理解して鑑賞されたようだった。公演終了後には文楽や人形に興味を持った観客から質問もあるなど、会場の反応は上々だった。23時30分に終了し各ホテルへ。

○3日目

リハーサル、中高生向け公演と交流、パレルモ県とパレルモ市それぞれの歓迎レセプション、夜の本公演と、イタリア滞在中では一番のハードスケジュールとなった。また、寒気の影響で急に気温が下がり、男性保存会員1名が体調不良により休養するなど、全員が疲れと時差ボケで疲労のピークを迎えてい

たようだった。しかし平均年齢 70 歳近くでありながら、夜の本公演まできちんと成功を収めるなど、保存会員の「疲れていても少しでも良い日本の伝統芸能をイタリアの皆さんに見せよう。」という気持ちと、慣れない異国の地でそれを実現するタフさには本当に驚かされた。



リハーサル



ミニ公演(人形解説)



ミニ公演(記念撮影)



パレルモ県知事、中村大使



パレルモ市長



本公演(解説)

12月15日(土)

9時30分に博物館集合、10時から小中学生向けのミニ公演開演(約130名)。小学校教師の説明の後、日本の小中学生の紹介ビデオを上映し「日高川入相花王」の上演。公演に対する小中学生の反応は大変良好で、初めて観る文楽人形に興味津々の様子。特に清姫が鬼に変化するシーンでは、口を開けたまま見入っている小学生がいるなど驚きを隠せないようだった。

終演後に山都町から持参した小中学生からのお土産交換会と人形とのふれあい体験、記念撮影を行った。交流をした学校は、国立アルサントロ・マゾーニ小学校と国立マドレサ・ディ・カッタ中学校で絵画、絵巻カレンダー、版画などを贈った。地元の子供達は見慣れない日本のお土産に終始楽しそうな表情を見せていた。

終了後、昼食へ。昼食後は21時からの本公演まで時間があるため各自ホテルにて休息となったが、保存会4名を含む8名は17時からのシチリア日本人文化協会の取材対応のため博物館に集合。約1時間の取材を受けた。終了後夕食を取りリハーサル。

21時からイタリア2回目の本公演(約130名)。疲れを考慮して博物館側に定刻どおりの開演を依頼するも、結局前日と変わらず30分遅れの21時30分開演となってしまった。前日同様2演目を上演。観客の反応も上々で成功を収めた。

23時30分に終了しホテルへ。

○4日目

前日と変わらず全員疲労が見え、イタリアの食事にも飽きられた様子で少し苛々されていたようだった。しかし地元の小中学生とのふれあいで楽しそうな表情や笑顔に触れたことにより保存会員も随分和まれたように感じた。

夜の本公演では舞台の袖が狭く照明が暗いため、公演中の舞台替えの際に女性保存会員1名が転倒し負傷するアクシデントが起きた。照明担当の博物館側には前日の公演から指示を行っていたが言葉の表現の面、日本とイタリアの感覚のズレにより、こちらの思いが上手く伝わらなかったようだ。幸い大事には至らず打撲程度の負傷で済み、胸をなでおろした。



ミニ公演（紹介ビデオ）



清姫の変化に驚く小学生



プレゼント交換



小中学生と記念撮影



取材対応



本公演2回目

12月16日（日）

公演が17時からの1回ということで、16時の集合まで自由時間。16時に集合し、ミーティングとリハーサル。

イタリア最後の公演が17時過ぎに開演（約130名）。日曜日の夕方ということもあり、子供連れの観客も見られた。同じく2演目を上演。終了時には大きな拍手と指笛が鳴り響くなど、観客の反応はこの日が一番大きかったように感じた。

公演終了後、最終日で時間も早かったため、人形と保存会員で観客の見送りに行った。実際に人形を持たせたり、仕組みを教えたり、握手を交わし記念撮影をするなど、言葉は通じないながらも最後のふれあいを精一杯行った。また、観客も人形体験、記念撮影などを楽しみ満足げな表情で帰られた。

ふれあい終了後、全員で使用した大道具などを再度梱包し、日本への輸送準備を行った。20時終了。

この日は公演最終日ということもあり、シチリア日本文化協会主催の食事会が開かれ、文化協会から一人一人に記念品として、マリオネットの人形が贈呈された。公演をすべて終了した保存会員は皆リラックスした表情で友好を深められていた。終了後ホテルへ。

○5日目

公演前のリハーサルでは厳しい声も飛び、イタリアで最後の公演に対する意気込みが感じられた。その緊張感が伝わったのか観客の反応も大変良く、保存会の皆さんも満足された様子だった。公演終了後のふれあいも大変盛り上がり、1回目と2回目の本公演終了後にも是非行いたかったのですが、公演終了時間の遅さと保存会員の疲労を考えると厳しい状況で、もう少し開演時間を早く設定できていればと思うと少々残念であった。(イタリアでは21時開演というのは普通とのこと。)

文化協会との食事会では、今回の公演でボランティアとして通訳や良くお世話をしていただいた、現地日本語教室のイタリア人の方々も参加され、大変貴重な交流となった。



ミーティング



満員の観客



人形とのふれあい

12月17日(月)

10時から貸切バスにて山崎氏の案内によるモンレアーレ及びマリオネット劇場視察。

マリオネットは中世フランスに起源を持った人形劇で、清和文楽と変わらずハイテクノロジー化が進む時代の中で、徐々に忘れかけられている古き良き伝統文化。人形師は世襲制でファミリア(家族)が代々受け継いでいくもので、シチリアに30ほどあったファミリアは現在3つしかないとのこと。

今回訪れた劇場はヴィンチェンツォ・アルジェントさんのファミリア。まずマリオネットの人形の説明を受ける。その後「オルランドとリナルドのアンジェリーカを巡る争い」(40分)という演目を鑑賞。セリフなどはほとんど解らなかったが、動きで観客の目を引く所など清和文楽との共通点も見られた。また、

舞台裏も見学させていただき、保存会にとって貴重な体験となった。

この訪問には地元の新聞記者も取材に来ており、翌日の朝刊にも清和文楽人形芝居との交流が取り上げられた。終了後ホテルへ。

16時からホテルにて最終公演を鑑賞に来ていた大学生の取材を受ける。大学生は日本の文楽の研究をしているとのことで、熱心に取材を行っていた。

終了後、夕食を取り各ホテルへ。

○6日目

イタリアでの公演をすべて終了したことで全員リラックスして視察を行えた。特にマリオネット劇場で海外の人形劇を視察できたこと、そのファミリアと交流できたことは保存会にとって大変有意義だった。また、山崎氏をはじめ日本語学校のボランティアの方々に同行いただき、スムーズに視察を行うことができた。



マリオネット鑑賞



頭が割れる仕掛け



公演後の挨拶



両人形の交流



記念撮影



大学生による取材

12月18日(火) 19日(水) 帰国

6時30分博物館手配の貸切バスにてホテルを出発パレルモ空港へ移動。

8時55分発 AZ1796 便にてローマ空港へ。到着後昼食。

14時発 AZ784 便にて成田空港へ出発。日本時間 19日 10時 20分に到着し、貸切バスにて羽田空港へ移動し昼食。

15時55分発 JL1811 便にて阿蘇熊本空港へ出発。17時40分到着後、貸切バスにて清和文楽館へ。19時10分清和文楽館到着。

福田理事長、倉岡保存会長の挨拶の後、解散。

イタリア公演報告会

1月13日(日) 15:00 清和文楽館

1月19日(土) 19:00 山都町立図書館

以上のとおりご報告いたします。

平成20年1月18日

団体名 清和文楽人形芝居保存会

代表者